

平成28年度事業評価シート

事業名	94100	社会教育推進事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	2350
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化	
	款	9	教育費		個別分野	2	生涯学習	
	項	4	社会教育費		施策の概要	3	学習成果の活用	
	目	1	社会教育総務費					
根拠計画	高山市教育振興基本計画							
実施計画事業	社会教育推進事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	社会教育の推進を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育委員会議の開催 社会教育推進事務 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育委員会議の開催 社会教育推進事務 							
	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		算出根拠等	目標値						
			実績値			-	-	-	-
		算出根拠等	達成率(%)			-	-	-	-
			目標値						
		算出根拠等	実績値			-	-	-	-
			達成率(%)			-	-	-	-
		算出根拠等	目標値						
			実績値			-	-	-	-
		算出根拠等	達成率(%)			-	-	-	-
			目標値						
		算出根拠等	実績値			-	-	-	-
			達成率(%)			-	-	-	-
		コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額
歳出(千円)			(A) 1,931	2,384	-	-	-		
受益者負担(使用料・負担金等)					-	-	-		
その他特定財源(国・県支出金・起債等)					-	-	-		
一般財源			1,931	2,384	-	-	-		
受益者1件当たり(円)			(A/B) 21	26	-	-	-		
コスト指標	受益者	全市民	(B) 90,938	90,024	-	-	-		

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか 社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか 	A (2) ニーズが高い	A	社会教育の推進を求める市民ニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市が事業主体であることは妥当か 国・県・民間の活動と競合していないか 	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	行政、地域、市民等が一体となって社会教育の推進に取り組んでいく必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	<ul style="list-style-type: none"> 目的とする成果があがっているか 成果指標などの目標値の達成状況はどうか 	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	評価対象外	社会教育の推進に係る事務費であり、活動・成果指標の設定が困難である
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	<ul style="list-style-type: none"> 最小限のコストで事業を実施できているか 委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか 国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか 受益者負担は適正か 	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	コスト削減に努めている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	<ul style="list-style-type: none"> 事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか 総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか 	A (2) 効果があつた	B	社会教育の視点を基に、新たな地域づくりの仕組みが始まるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成に向けある程度効果があつた
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 8	→	100点換算	75 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりのための社会教育の関わり方について検討する必要がある
---------------------------------------	---

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	社会教育の推進を図る
----------------------	------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	協働のまちづくりの取り組みを踏まえ、地域づくりのための社会教育の関わり方について検討する
------------------	--

担当課における次年度の考え	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりのための社会教育の推進を図る 						

平成28年度事業評価シート

事業名	94200	文化会館管理事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	2361
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化	
	款	9	教育費		個別分野	4	文化芸術	
	項	4	社会教育費		施策の概要	1	文化芸術に親しむ機会の充実	
	目	2	文化会館費					
根拠計画	高山市教育振興基本計画							
実施計画事業	文化会館管理事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・文化会館の適正な管理運営により市民の利用を促進する		
概要	事業の実施手法(手段)	・指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	・指定管理者による施設の管理運営							
	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		算出根拠等	目標値						
			実績値						
		算出根拠等	達成率(%)						
	目標値								
	算出根拠等	実績値							
		達成率(%)							
	成果指標	利用件数	件	目標値	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500
		算出根拠等	実績値	6,205					
達成率(%)			95						
利用者数		人	目標値	300,000	300,000	300,000	300,000		
算出根拠等	実績値	257,129							
	達成率(%)	86							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出(千円)			(A)	129,109	235,788			
	受益者負担(使用料・負担金等)			88	72				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
	一般財源			129,021	235,716				
	受益者1件当たり(円)			(A/B)	1,420	2,619			
コスト指標	受益者	全市民	(B)	90,938	90,024				

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・文化芸術活動等の活性化に伴い施設利用に対する市民ニーズは高まっている ・施設の利便性の向上や安全性の確保に対する市民ニーズは高まっている
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の管理運営である ・市有施設の整備である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を導入し、利用者サービスの向上、コスト縮減に努めている ・コスト削減等を図りながら、計画的に整備を行っている
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・適正な管理運営により、文化芸術活動等が活性化されるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成及び市長公約の実現に効果があった ・施設の整備により、利便性の向上や安全性の確保が図られるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成及び市長公約の実現に効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・施設のより一層の利用促進を図る必要がある ・施設の利便性の向上や安全性の確保に向けて、計画的に整備を行う必要がある ・将来的な施設のあり方について検討する必要がある
--	---

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・引き続き指定管理者を通じて適切な施設管理を図る必要がある ・将来的な施設のあり方について検討する必要がある
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催 ・施設の利便性の向上や安全性の確保に向けた整備 ・市民ニーズ、施設の利用状況、整備の緊急性等を踏まえた施設整備計画の見直し ・定期報告等にもとづく施設整備計画の見直し ・将来的な施設のあり方についての検討
------------------	---

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	・施設のより一層の利用促進を図る ・計画的に整備を実施する ・将来的な施設のあり方について検討する						

平成28年度事業評価シート

事業名	94300	公民館管理事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	2361
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化	
	款	9	教育費		個別分野	2	生涯学習	
	項	4	社会教育費		施策の概要	1	学習機会の充実	
	目	3	公民館費					
根拠計画	高山市教育振興基本計画							
実施計画事業	公民館管理事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・公民館の適正な管理運営により市民の利用を促進する		
概要	事業の実手法(手段)	・指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	・指定管理者による施設の管理運営							
	成果指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		公民館利用登録団体数	件	目標値	230	230	230	230	230
				実績値	217	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	94	-	-	-	-
		活動指標		目標値					
				実績値					
		算出根拠等		達成率(%)					
		公民館利用者数	人	目標値	85,000	87,000	89,000	91,000	93,000
				実績値	93,990	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	111	-	-	-	
		成果指標		目標値					
				実績値					
		算出根拠等		達成率(%)					
		コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額
歳出(千円)			(A)	47,864	55,379	-	-	-	
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)			797	850	-	-		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
コスト指標	一般財源			47,067	54,529	-	-		
	受益者1件当たり(円)		(A/B)	526	615	-	-		
	受益者	全市民	(B)	90,938	90,024	-	-		

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・社会教育活動等の活性化に伴い施設利用に対する市民ニーズは高まっている。 ・施設の利便性の向上や安全性の確保に対する市民ニーズは高まっている
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・市有施設の管理運営である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・活動・成果指標の目標値を十分に達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を導入し、利用者サービスの向上、コスト縮減に努めている
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・適正な管理運営により、社会教育活動等が活性化されるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成に効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・施設より一層の利用促進を図る必要がある ・施設の利便性の向上や安全性の確保に向けて、計画的に整備を行う必要がある ・市が直営する公民館の移譲等をすすめる必要がある
---------------------------------------	--

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・指定管理施設については、引き続き指定管理者を通じて適切な施設管理を図る必要がある
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催 ・施設の定期報告等にもとづく施設安全整備計画の策定 ・市が直営する公民館の移譲等に向けた関係機関等との協議
------------------	--

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	・施設より一層の利用促進を図る											

平成28年度事業評価シート

事業名	94400	女性青少年会館管理事業費	担当課	市民活動部 生涯学習課	内線 2349
予算	会計	1 一般会計	総合計画	基本分野	3 教育・文化
	款	9 教育費		個別分野	2 生涯学習
	項	4 社会教育費		施策の概要	2 家庭や地域を大切にす意識の高揚
	目	4 女性青少年推進費			
根拠計画	高山市教育振興基本計画				
実施計画事業	女性青少年会館管理事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・女性青少年会館の適正な管理運営により市民の利用を促進する		
概要	事業の実施手法(手段)	・指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	・指定管理者による施設の管理運営							
	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
					目標値				
		実績値		-	-	-	-		
		算出根拠等		達成率(%)		-	-	-	-
					目標値				
		実績値		-	-	-	-		
		算出根拠等		達成率(%)		-	-	-	-
					目標値				
		実績値		-	-	-	-		
成果指標		利用者数	件	目標値	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300
	実績値				1,420	-	-	-	-
	算出根拠等		達成率(%)	109	-	-	-	-	
				目標値	12,500	12,850	13,200	13,550	13,750
	利用者数	人	実績値	13,608	-	-	-	-	
	算出根拠等		達成率(%)	109	-	-	-	-	
目標値									
実績値		-	-	-	-				
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出(千円)			(A) 16,123	16,130	-	-	-	
	受益者負担(使用料・負担金等)			18	14	-	-	-	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					-	-	-	
	一般財源			16,105	16,116	-	-	-	
	コスト指標			(A/B) 177	179	-	-	-	
受益者			(B) 90,938	90,024	-	-	-		

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・女性青少年の活動の拠点として施設利用に対する市民ニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の管理運営である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・活動・成果指標の目標値を十分に達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を導入し、利用者サービスの向上、コスト削減に努めている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・適正な管理運営により、女性青少年活動が活発化されるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成に効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・施設のより一層の利用促進を図る必要がある
---------------------------------------	-----------------------

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・引き続き指定管理者を通じて適切な施設管理を図る必要がある
----------------------	-------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催
------------------	------------------------

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	・施設のより一層の利用促進を図る											

平成28年度事業評価シート

事業名	94405	勤労青少年ホーム運営事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課	内線	2349
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	1	産業・労働
	款	9	教育費		個別分野	4	労働
	項	4	社会教育費		施策の概要	3	勤労者支援の充実
	目	4	女性青少年推進費				
根拠計画	高山市教育振興基本計画						
実施計画事業	勤労青少年ホーム運営事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	勤労青少年(15歳～35歳)	対象者数	16,192 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・勤労青少年ホームを活用した各種事業等の実施により青少年の健全育成を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	・指定管理者による施設の管理運営								
	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		教養講座開催数	回	目標値	300	300	300	300	300	
				実績値	262	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	87	-	-	-	-	
		クラブ数	件	目標値	15	15	15	15	15	
				実績値	14	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	93	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-	
		教養講座参加人数	人	目標値	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	
				実績値	2,539	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	67	-	-	-	-	
		クラブ活動件数	件	目標値	500	500	500	500	500	
				実績値	328	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	66	-	-	-	-	
クラブ活動人数	人	目標値	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000			
		実績値	1,814	-	-	-	-			
算出根拠等		達成率(%)	91	-	-	-	-			
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額		
	歳出(千円)			(A)	4,205	4,205	-	-		
	受益者負担(使用料・負担金等)			-	-	-	-	-		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			-	-	-	-	-		
	一般財源			4,205	4,205	-	-	-		
コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B)	237	260	-	-		
	受益者	勤労青少年(15歳～35歳)	(B)	17,758	16,192	-	-	-		

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・勤労青少年ホームを活用した学習や交流の機会を求める市民ニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の管理運営である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を導入し、利用者サービスの向上、コスト削減に努めている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・適正な管理運営により、勤労青少年の教養の向上や活発な交流が図られるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成に効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・施設により一層の利用促進を図る必要がある
---------------------------------------	-----------------------

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・引き続き指定管理者を通じて適切な施設管理を図る必要がある
----------------------	-------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催
------------------	------------------------

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	・施設により一層の利用促進を図る						

平成28年度事業評価シート

事業名	94410	青少年健全育成事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課	内線	2349
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化
	款	9	教育費		個別分野	2	生涯学習
	項	4	社会教育費		施策の概要	2	家庭や地域を大切にす意識の高揚
	目	4	女性青少年推進費				
根拠計画	高山市教育振興基本計画						
実施計画事業	青少年健全育成事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・青少年健全育成団体の支援等を通じて健全な青少年を育成する		
概要	事業の実施手法(手段)	・青少年健全育成活動 ・青少年健全育成団体の活動に対する助成		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	・青少年健全育成活動 ・青少年健全育成団体の活動に対する助成								
	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		青少年健全育成活動 ・青少年健全育成団体の活動に対する支援	日	目標値	4	4	4	4	4	4
				実績値	4	-	-	-	-	
		算出根拠等	少年の主張1日、写真・図画展3日	達成率(%)	100	-	-	-	-	-
		子ども会リーダー研修会開催回数	回	目標値	2	2	2	2	2	2
				実績値	2	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	100	-	-	-	-	-
		青少年健全育成活動市民来場者	人	目標値	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
				実績値	842	-	-	-	-	
		算出根拠等	少年の主張300人、写真・図画展600人	達成率(%)	77	-	-	-	-	-
		子ども会リーダー研修会参加者数	人	目標値	300	250	250	250	250	250
				実績値	204	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	68	-	-	-	-	-
		コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額
歳出(千円)			(A) 2,515	2,630	-	-	-			
受益者負担(使用料・負担金等)					-	-	-			
その他特定財源(国・県支出金・起債等)					-	-	-			
一般財源			2,515	2,630	-	-	-			
受益者1件当たり(円)			(A/B) 28	29	-	-	-			
コスト指標	受益者	全市民	(B) 90,938	90,024	-	-	-	-		

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・青少年の健全育成を図る取り組みに対する市民ニーズは高い必要がある
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市、地域、市民等が一体となって青少年の健全育成に取り組む必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・コスト削減に努めている ・支援のあり方等について検討している
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・青少年健全育成団体等の活動を通して、青少年の健全育成が図られるなど、総合計画及び教育振興基本計画の目的達成及び市長公約の実現にある程度効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・青少年健全育成団体活動の更なる充実に向け、支援のあり方等について検討する必要がある
---------------------------------------	--

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・青少年健全育成団体等全市民的な組織とまちづくり協議会とのかかわりの中で、より良い活動ができるよう支援していく
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・青少年健全育成団体等全市民的な組織とまちづくり協議会とのかかわりの中で、より良い活動ができるよう支援していく
------------------	---

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	・青少年健全育成団体等全市民的な組織とまちづくり協議会とのかかわりの中で、より良い活動ができるよう支援していく						

平成28年度事業評価シート

事業名	94415	女性団体育成事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	2349
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	6	協働・行政	
	款	9	教育費		個別分野	1	協働	
	項	4	社会教育費		施策の概要	5	男女共同参画社会の実現	
	目	4	女性青少年推進費					
根拠計画								
実施計画事業		女性団体育成事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	女性市民(20歳以上の女性)	対象者数	39,095 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	女性の視点から身近な暮らしの中の問題を解決することを目指して活動している女性団体の育成を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	女性団体の活動に対する助成		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	女性団体の活動に対する支援							
	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		地域交流を目的とした研修会の開催	回	目標値	2	2	2	2	2
				実績値	2	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	-	-	-	-
				目標値					
				実績値					
		算出根拠等		達成率(%)					
				目標値					
				実績値					
		算出根拠等		達成率(%)					
				目標値					
				実績値					
		算出根拠等		達成率(%)					
				目標値					
実績値									
算出根拠等		達成率(%)							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出(千円)			(A) 162	190	-	-	-	
	受益者負担(使用料・負担金等)								
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
	一般財源			162	190	-	-	-	
コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B) 4	5	-	-	-	
	受益者	女性市民(20歳以上の女性)	(B)	39,615	39,095	-	-	-	

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	女性の視点から身近な暮らしの中の問題を解決しようとする市民ニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	女性団体の育成を図るため、市が主体となってその活動を支援する必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	活動指標の目標値を十分に達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	支援のあり方等について検討している
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	女性団体への支援を通じて、女性団体の育成が図られるなど、総合計画の目標達成及び市長公約の実現にある程度効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	女性団体活動の更なる充実に向け、支援のあり方等について引き続き検討する必要がある
---------------------------------------	--

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	女性団体が継続して活動できるよう支援していく
----------------------	------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	女性団体が継続して活動できるよう支援していく
------------------	------------------------

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	女性団体が継続して活動できるよう支援していく											

平成28年度事業評価シート

事業名	94420	成人式開催事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課	内線	2349
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化
	款	9	教育費		個別分野	2	生涯学習
	項	4	社会教育費		施策の概要	2	家庭や地域を大切にす意識の高揚
	目	4	女性青少年推進費				
根拠計画	高山市教育振興基本計画						
実施計画事業	成人式開催事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	満20歳となる市民及び市内中学校卒業生	対象者数	932 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	「新成人を祝うつどい」を開催する		
概要	事業の実施手法(手段)	・12中学校区で実行委員会を組織し、式典を開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	・12中学校区で実行委員会を組織し、式典を開催							
	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
					目標値				
		実績値		-	-	-	-		
		算出根拠等		達成率(%)		-	-	-	-
					目標値				
		実績値		-	-	-	-		
		算出根拠等		達成率(%)		-	-	-	-
					目標値				
		実績値		-	-	-	-		
算出根拠等			達成率(%)		-	-	-	-	
	目標値								
実績値		-	-	-	-				
成人式参加者数	人	目標値	860	860	860	860	860		
			実績値	863	-	-	-	-	
算出根拠等		達成率(%)	100	-	-	-	-		
			目標値	300	300	300	300	300	
「はたちの思い」行詩応募数	点	実績値	306	-	-	-	-		
			目標値						
算出根拠等		達成率(%)	102	-	-	-	-		
			目標値						
実績値		-	-	-	-				
算出根拠等		達成率(%)		-	-	-	-		
			目標値						
実績値		-	-	-	-				
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出(千円)			(A) 3,000	3,000	-	-	-	
	受益者負担(使用料・負担金等)					-	-	-	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					-	-	-	
	一般財源			3,000	3,000	-	-	-	
コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B) 3,161	3,219	-	-	-	
	受益者	満20歳となる市民及び市内中学校	(B)	949	932	-	-	-	

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・人生の節目として、成人式開催に対する市民ニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・次代を担う若者の成人をお祝いし、社会的責任等の自覚と地域への愛着を促す事業であり、市が事業主体となって取り組む必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・成果指標の目標値を概ね達成しているが、地域への愛着を深めるためのさらなる取り組みが必要である
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・地域ごとに設立される実行委員会が、コスト面を含めて地域にあった手づくりの成人式を創意工夫を凝らしながら実施している
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・成人式の開催を通じて、社会的責任等の自覚や地域への愛着が深まるなど、総合計画の目標達成にある程度効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・より有意義な成人式となるよう、開催手法等について協議する必要がある
---------------------------------------	------------------------------------

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・今後も創意工夫しながら実施する必要がある
----------------------	-----------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・実行委員会等との協議
------------------	-------------

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	・前年度の実施状況を踏まえ「新成人を祝うつどい」を開催する						

平成28年度事業評価シート

事業名	94500	図書館管理事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	2350
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化	
	款	9	教育費		個別分野	2	生涯学習	
	項	4	社会教育費		施策の概要	1	学習機会の充実	
	目	5	図書館費					
根拠計画	高山市教育振興基本計画							
実施計画事業	図書館管理事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	図書館の適正な管理運営により市民の利用を促進する		
概要	事業の実施手法(手段)	指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	指定管理者による施設の管理運営						
	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
活動指標	蔵書数	点	目標値	320,000	320,000	320,000	320,000	320,000
			実績値	327,485	-	-	-	-
	算出根拠等		達成率(%)	102	-	-	-	-
			目標値					
			実績値					
	算出根拠等		達成率(%)					
成果指標	図書館利用登録者数	人	目標値	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000
			実績値	55,123	-	-	-	-
	算出根拠等		達成率(%)	104	-	-	-	-
	来館者数	人	目標値	450,000	450,000	460,000	460,000	470,000
			実績値	444,296	-	-	-	-
	算出根拠等		達成率(%)	99	-	-	-	-
貸出点数	点	目標値	580,000	530,000	530,000	530,000	530,000	
		実績値	536,959	-	-	-	-	
算出根拠等		達成率(%)	93	-	-	-	-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出(千円)		(A)	190,507	178,880	-	-	
	受益者負担(使用料・負担金等)			11	-	-	-	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			24	-	-	-	
	一般財源			190,472	178,880	-	-	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	2,095	1,987	-	-	
	受益者	全市民	(B)	90,938	90,024	-	-	

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	蔵書の整備や読書推進事業等図書館機能の充実を求める市民ニーズは高まっている
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市有施設の管理運営である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	活動・成果指標の目標値を概ね達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	指定管理者制度を導入し、利用者サービスの向上、コスト削減に努めている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	適正な管理運営により、知の拠点施設としての機能の充実が図られるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成に向け効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価するために何が必要なのかを記入)	・利用者のニーズに応じた資料の購入や配本、レファレンスサービスの向上など、施設のより一層の利用促進を図る必要がある
---------------------------------------	---

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・引き続き指定管理者を通じて適切な施設管理を図る必要がある
----------------------	-------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催
------------------	------------------------

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	・施設のより一層の利用促進を図る											

平成28年度事業評価シート

事業名	94600	文化振興支援事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	2350
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化	
	款	9	教育費		個別分野	4	文化芸術	
	項	4	社会教育費		施策の概要	2	文化芸術活動の促進	
	目	6	文化振興費					
根拠計画		高山市教育振興基本計画						
実施計画事業		文化振興支援事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術の振興を図る 市民の自主的な文化芸術活動を支援する 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 文化振興事務 文化芸術活動への支援 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績		<ul style="list-style-type: none"> 文化振興事務 文化芸術活動への支援 						
	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		飛騨春慶楽器による演奏会等	回	目標値	5	5	5	5	5
				実績値	3	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	60	-	-	-	-
		文化振興事業補助件数	件	目標値	20	20	20	20	20
				実績値	19	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	95	-	-	-	-
				目標値	-	-	-	-	-
				実績値	-	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-
				目標値	-	-	-	-	-
				実績値	-	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-
				目標値	-	-	-	-	-
実績値	-			-	-	-	-		
算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-		
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額		
	歳出(千円)		(A)	6,734	16,020	-	-		
	受益者負担(使用料・負担金等)								
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				2,400	-	-		
	一般財源			6,734	13,620	-	-		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	74	178	-	-		
	受益者	全市民	(B)	90,938	90,024	-	-		

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・心の中や生活に潤いと豊かさを求める市民意識の変化のなか、文化芸術の振興を求める市民ニーズは高まっている ・市民の自主的な文化芸術活動への支援を求める市民ニーズは高まっている
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市、関係団体、市民等が一体となって文化芸術の振興を図る必要がある ・市民の自主的な文化芸術活動を促すため、市が主体となって、その活動を支援する必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・活動指標の目標値を概ね達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・コスト削減に努めている ・支援のあり方について検討している
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・各種取り組みを通じて、あらたな文化の創造と振興が図られるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成及び市長公約の実現にある程度効果があった ・市民の自主的な文化芸術活動への支援を通じて、その活動が活発化されるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成及び市長公約の実現にある程度効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		7 / 10	→	100点換算 70 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術の振興を図る 市民の文化芸術活動に対する支援のあり方等について検討する必要がある
---------------------------------------	---

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・引き続き適正な事務の執行に努める必要がある
----------------------	------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術の振興を図る 文化芸術振興指針にもとづき事業を実施する
------------------	--

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術の振興を図る 文化芸術振興指針にもとづき事業を実施する 市民の自主的な文化芸術活動を支援する 											

平成28年度事業評価シート

事業名	94605	美術展覧会等開催事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	2361
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化	
	款	9	教育費		個別分野	4	文化芸術	
	項	4	社会教育費		施策の概要	1	文化芸術に親しむ機会の充実	
	目	6	文化振興費					
根拠計画	高山市教育振興基本計画							
実施計画事業	美術展覧会等開催事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・美術展覧会等の開催を通じて、文化芸術の振興を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・公募美術展の開催 ・市有美術品の保存、展示		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	・公募美術展の開催 ・市有美術品の保存、展示								
	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		市美術展覧会の応募点数	点	目標値	300	300	300	300	300	
				実績値	344	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	115	-	-	-	-	
		飛騨高山現代木版画展の応募点数	点	目標値	-	600	-	-	600	
				実績値	-	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-	
		飛騨高山隊龍桜日本画大賞展の応募点数	点	目標値	620	-	-	620	-	
				実績値	704	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	114	-	-	-	-	
		市美術展覧会の入場者数	人	目標値	2,000	2,200	2,200	2,200	2,200	
				実績値	2,437	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	122	-	-	-	-	
		飛騨高山現代木版画展の入場者数	人	目標値	-	-	1,000	-	-	
実績値	-			-	-	-	-			
算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-			
飛騨高山隊龍桜日本画大賞展の入場者数	人	目標値	2,000	-	-	2,000	-			
		実績値	2,018	-	-	-	-			
算出根拠等		達成率(%)	101	-	-	-	-			
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額		
	歳出(千円)			(A)	8,199	3,900	-	-		
	受益者負担(使用料・負担金等)									
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				1,570	600	-	-		
	一般財源				6,629	3,300	-	-		
コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B)	90	43	-	-		
	受益者	全市民	(B)	90,938	90,024	-	-			

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・文化芸術の市民生活への浸透に伴い、美術作品の発表の場や鑑賞機会の創出を求める市民ニーズは高まっている
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・美術展覧会等の開催は、文化芸術の振興において、大きな効果が期待されるため、市が事業主体となって実施する必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・活動指標の目標値を十分に達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・コスト縮減に努めている
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・美術展覧会等の開催を通じて、文化芸術に対する意識が醸成されるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成及び市長公約の実現にある程度効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・より多くの市民に親しまれる展覧会等となるよう、あり方等について検討する必要がある ・市有美術品の活用を図る必要がある
---------------------------------------	--

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・美術展覧会等の開催を通じて、文化芸術の振興を図る ・美術展覧会のあり方について検討する(実施方法の見直し等) ・市有美術品の有効活用を図る
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・美術展覧会あり方検討委員会で検討(実施方法の見直し等) ・市有美術品の市施設での展示拡大 ・飛騨高山現代木版画展の国際公募の実施(事業PR)
------------------	---

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	・美術展覧会等の開催を通じて、文化芸術の振興を図る ・美術展覧会のあり方について検討する(実施方法の見直し等) ・市有美術品の有効活用を図る						

平成28年度事業評価シート

事業名	94610	文化芸術鑑賞事業費	担当課	市民活動部 生涯学習課	内線
					2350
予算	会計	1 一般会計	総合計画	基本分野	3 教育・文化
	款	9 教育費		個別分野	4 文化芸術
	項	4 社会教育費		施策の概要	1 文化芸術に親しむ機会の充実
	目	6 文化振興費			
根拠計画	高山市教育振興基本計画				
実施計画事業	文化芸術鑑賞事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	優れた文化芸術にふれる機会の充実を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校芸術鑑賞事業の開催 ・市民文化芸術鑑賞事業の開催 ・子ども夢創造事業の開催 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校芸術鑑賞事業の開催 ・市民文化芸術鑑賞事業の開催 							
	活動指標	小学校芸術鑑賞事業の実施回数	回	目標値	2	2	2	2	2	
			実績値	2	-	-	-	-		
		算出根拠等	達成率(%)	100	-	-	-	-		
		市民文化芸術鑑賞事業の実施回数	回	目標値	10	10	10	10	10	
			実績値	11	-	-	-	-		
		算出根拠等	達成率(%)	110	-	-	-	-		
				目標値						
				実績値						
		算出根拠等	達成率(%)							
		成果指標	小学校芸術鑑賞事業の参加者数(4、6年生)	人	目標値	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900
				実績値	1,828	-	-	-	-	
			算出根拠等	達成率(%)	96	-	-	-	-	
			市民文化芸術鑑賞事業への参加者数	人	目標値	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
	実績値	6,272		-	-	-	-			
算出根拠等	達成率(%)	78	-	-	-	-				
		目標値								
		実績値								
算出根拠等	達成率(%)									
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額			
	歳出(千円)		(A) 33,006	33,120	-	-	-			
	受益者負担(使用料・負担金等)				-	-	-			
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				-	-	-			
	一般財源		33,006	33,120	-	-	-			
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 363	368	-	-	-			
	受益者	全市民	(B) 90,938	90,024	-	-	-			

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・大規模で優れた舞台芸術を鑑賞する機会を求める市民ニーズは高まっている
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が事業主体として、市民が優れた文化芸術(民間では困難な分野や規模)にふれる機会を提供する必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・専門的知識がある団体へ事業委託をするなど、事業の効率化やコスト削減等に努めている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・文化芸術鑑賞の機会の創出を通じて、文化芸術に対する意識が醸成されるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成及び市長公約の実現に一定の効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		7 / 10	→	100点換算 70 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることが必要なかを記入)	・子どもたちが文化芸術を通じて将来の夢を育むことができるような事業展開が必要である
-------------------------------------	---

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・事業実績や参加者の声・市民ニーズなどの把握に努め、事業効果を高める必要がある
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・子どもたちが文化芸術を通じて将来の夢を育むことができる「子ども夢創造事業」の実施
------------------	---

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	・優れた文化芸術にふれる機会の充実を図る						

平成28年度事業評価シート

事業名	94620	文化伝承館管理事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	2361
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化	
	款	9	教育費		個別分野	4	文化芸術	
	項	4	社会教育費		施策の概要	1	文化芸術に親しむ機会の充実	
	目	6	文化振興費					
根拠計画	高山市教育振興基本計画							
実施計画事業	文化伝承館管理事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・文化伝承館の適正な管理運営により市民の利用を促進する		
概要	事業の実施手法(手段)	・指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	・指定管理者による施設の管理運営								
	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		算出根拠等	目標値							
			実績値			-	-	-	-	-
		算出根拠等	達成率(%)			-	-	-	-	-
			目標値							
		算出根拠等	実績値			-	-	-	-	-
			達成率(%)			-	-	-	-	-
		成果指標	利用件数	件	目標値	100	100	100	100	100
					実績値	88	-	-	-	-
算出根拠等			達成率(%)	88	-	-	-	-		
	目標値		3,500	3,500	3,500	3,500	3,500			
利用者数	人		実績値	2,914	-	-	-	-		
			達成率(%)	83	-	-	-	-		
算出根拠等	目標値									
	実績値			-	-	-	-			
算出根拠等	達成率(%)			-	-	-	-			
	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額		
コスト面	歳出(千円)			(A)	3,751	3,760	-	-		
	受益者負担(使用料・負担金等)						-	-		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						-	-		
	一般財源				3,751	3,760	-	-		
コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B)	41	42	-	-		
	受益者	全市民	(B)	90,938	90,024	-	-	-		

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・お茶会や歌会、日本舞踊など、施設に適した利用ニーズがある
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の管理運営である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を導入し、利用者サービスの向上、コスト削減に努めている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・適正な管理運営により、市民の利用が促進されるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成及び市長公約の実現に効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・施設より一層の利用促進を図る必要がある
---------------------------------------	----------------------

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・引き続き指定管理者を通じて適切な施設管理を図る必要がある
----------------------	-------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催
------------------	------------------------

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	・施設より一層の利用促進を図る											

平成28年度事業評価シート

事業名	94630	飛騨高山文化芸術祭開催事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	2361
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化	
	款	9	教育費		個別分野	4	文化芸術	
	項	4	社会教育費		施策の概要	2	文化芸術活動の促進	
	目	6	文化振興費					
根拠計画	高山市教育振興基本計画							
実施計画事業	飛騨高山文化芸術祭開催事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市民が主役の文化芸術の創造・振興を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・飛騨高山文化芸術祭の開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	・飛騨高山文化芸術祭イベントの開催								
	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		市民提案プロジェクト事業数	件	目標値		15	—	—	—	15
				実績値		—	—	—	—	—
		算出根拠等			達成率(%)	—	—	—	—	—
		実行委員会プロジェクト事業数	件	目標値	8	12	8	—	—	—
				実績値	8	—	—	—	—	
		算出根拠等			達成率(%)	100	—	—	—	—
		市民応援プロジェクト事業数	件	目標値	50	50	—	—	—	50
				実績値	0	—	—	—	—	
		算出根拠等			達成率(%)	0	—	—	—	—
		成果指標		目標値						
				実績値						
			算出根拠等			達成率(%)				
				目標値						
実績値										
算出根拠等				達成率(%)						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額		
	歳出(千円)			(A)	8,160	50,000	—	—	—	
	受益者負担(使用料・負担金等)									
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				20,520	—	—	—		
	一般財源				8,160	29,480	—	—		
	受益者1件当たり(円)			(A/B)	90	555	—	—		
コスト指標	受益者	全市民	(B)	90,938	90,024	—	—	—		

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・心の中や生活に潤いと豊かさを求める市民意識の変化のなか、文化芸術の振興を求める市民ニーズは高まっている
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市、関係団体、市民等が一体となって文化芸術の振興を図る必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している ・市民応援プロジェクト事業にかかる広報周知が弱く、文化芸術事業実施者に広く浸透させることができなかった
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・市民応援型のイベント開催など市民主体の実施に努めている ・コスト縮減に努めている
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・各種取り組みを通じて、あらたな文化の創造と振興が図られるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成及び市長公約の実現にある程度効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価のために何が必要なかを記入)	・文化芸術振興の象徴的なイベントとして、市民一人ひとりが主役の文化芸術祭とする ・実施内容の成果、課題を洗い出し、より効果的な開催への分析と検証が必要である
-------------------------------------	---

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	※前年度事業実施なし
----------------------	------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・広く市民等への啓発を行い、文化芸術の振興を図る ・飛騨高山文化芸術祭(本イベント)を開催する
------------------	--

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	・飛騨高山文化芸術祭を振り返り、課題等の洗い出し ・次回開催に向けた検討											

平成28年度事業評価シート

事業名	94900	生涯学習推進事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	2350
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化	
	款	9	教育費		個別分野	2	生涯学習	
	項	4	社会教育費		施策の概要	1	学習機会の充実	
	目	9	生涯学習推進費					
根拠計画	高山市教育振興基本計画							
実施計画事業	生涯学習推進事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・生涯学習機会の提供と充実を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・生涯学習講座の開催 ・子ども夢創造事業の開催 ・放送大学岐阜学習センター高山分室の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	・生涯学習講座の開催 ・子ども夢創造事業の開催 ・放送大学岐阜学習センター高山分室の管理運営								
	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31	
		生涯学習講座開催数	件	目標値	20	20	20	20	20	
				実績値	11	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	55	-	-	-	-	
		子ども夢創造事業開催数	件	目標値	7	7	7	7	7	
				実績値	9	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	129	-	-	-	-	
		放送大学高山分室学生数	人	目標値	80	80	80	80	80	
				実績値	76	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	95	-	-	-	-	
		成果指標	生涯学習講座受講者数	人	目標値	1,000	1,000	1,000	1,000	1,100
					実績値	1,004	-	-	-	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	-	-	-	-	
	子ども夢創造事業参加者数		人	目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	
実績値		1,146		-	-	-	-			
算出根拠等		達成率(%)	96	-	-	-	-			
放送大学高山分室新規入学者数	人	目標値	10	10	10	10	10			
		実績値	20	-	-	-	-			
算出根拠等		達成率(%)	200	-	-	-	-			
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額		
	歳出(千円)			(A)	3,751	4,200	-	-		
	受益者負担(使用料・負担金等)									
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)									
	一般財源				3,751	4,200	-	-		
コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B)	41	47	-	-		
	受益者	全市民	(B)	90,938	90,024	-	-	-		

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・自己の知識・技術・経験を高める学習や地域づくりにつながる学習など、生涯学習機会の提供と充実を求める市民ニーズは高まっている
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・市、民間、地域等の適正な役割分担のもと、生涯学習に対する関心の高まりや多様化する学習ニーズに対応した事業を展開していく必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・コスト縮減に努めている
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・各種講座や事業の実施により、学習機会の拡充が図られるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成に向けある程度効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・自己研鑽のための学習だけでなく、地域づくりにつながる学習機会を提供する必要がある ・子どもたちが科学やものづくりを通じて将来の夢を育むことができるような事業展開が必要である
---------------------------------------	--

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・市民ニーズを確認するとともに、事業のあり方について、検討する必要がある ・より一層の利用促進を図る
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・生涯学習機会の提供と充実を図る ・子ども夢創造事業を実施する
------------------	------------------------------------

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了	H28完了予定
	・生涯学習機会の提供と充実を図る ・子ども夢創造事業を実施する										

平成28年度事業評価シート

事業名	94910	家庭教育充実事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課	内線	2349
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化
	款	9	教育費		個別分野	2	生涯学習
	項	4	社会教育費		施策の概要	2	家庭や地域を大切にしている意識の高揚
	目	9	生涯学習推進費				
根拠計画	高山市教育振興基本計画						
実施計画事業	家庭教育充実事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・家庭や地域とのかかわりの中で教え学び合えるつながりのある家庭教育を実施する ・PTAが行う、地域の絆を深め子どもたちを見守る活動を支援する		
概要	事業の実施手法(手段)	・家庭教育講座の開催 ・PTA連合会の活動に対する支援		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	・家庭教育講座の開催 ・PTA連合会の活動に対する支援									
	成果指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31	
		活動指標	家庭教育充実事業の実施回数	回	目標値	360	300	300	300	300	
					実績値	226	-	-	-	-	
					算出根拠等	達成率(%)	63	-	-	-	-
		活動指標	PTA研修大会の開催	回	目標値	1	1	1	1	1	
					実績値	1	-	-	-	-	
					算出根拠等	達成率(%)	100	-	-	-	-
		成果指標	家庭教育充実事業の参加人数	人	目標値	37,000	38,000	38,000	38,000	38,000	
					実績値	21,666	-	-	-	-	
					算出根拠等	達成率(%)	59	-	-	-	-
					目標値	-	-	-	-	-	
					実績値	-	-	-	-	-	
					算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-	-
		コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
歳出(千円)			(A)	1,199	1,760	-	-				
受益者負担(使用料・負担金等)											
その他特定財源(国・県支出金・起債等)											
一般財源			1,199	1,760	-	-					
(A/B)			13	20	-	-					
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	13	20	-	-					
	受益者	全市民	(B)	90,938	90,024	-	-				

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・子どもの基本的な生活習慣や社会性を育むため、家庭教育の充実を求める市民ニーズは高い ・次世代を担う子ども達の健全育成を図る取り組みに対する市民ニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市、地域、家庭等の適正な役割分担のもと、家庭教育に対する市民ニーズに対応した事業を展開していく必要がある ・次世代を担う子ども達の健全育成を図るため、市が主体となってPTA連合会の活動を支援する必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・コスト削減に努めている ・支援のあり方について検討している
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・家庭教育講座の開催を通じて、家庭教育の充実が図られるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成にある程度効果があった ・PTA連合会の活動を通じて、子どもたちの健全育成が図られるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成にある程度効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・家庭教育の充実を求める市民ニーズに対応した家庭教育のあり方について引き続き検討する必要がある ・PTA活動の更なる充実に向け、支援のあり方等について引き続き検討する必要がある
---------------------------------------	---

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・まちづくり協議会で行う家庭教育と連携する仕組みについて検討する ・PTAがまちづくり協議会の中でより良い活動ができるよう支援する
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・まちづくり協議会で行う家庭教育と連携する仕組みについて検討する ・PTAがまちづくり協議会の中でより良い活動ができるよう支援する
------------------	--

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	・まちづくり協議会で行う家庭教育と連携する仕組みについて検討する ・PTAがまちづくり協議会の中でより良い活動ができるよう支援する						

平成28年度事業評価シート

事業名	94920	生涯学習施設等管理事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	2361
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化	
	款	9	教育費		個別分野	2	生涯学習	
	項	4	社会教育費		施策の概要	1	学習機会の充実	
	目	9	生涯学習推進費					
根拠計画	高山市教育振興基本計画							
実施計画事業	生涯学習施設等管理事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	生涯学習施設の適正な管理運営により市民の利用を促進する		
概要	事業の実施手法(手段)	指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	指定管理者による施設の管理運営							
	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		算出根拠等	目標値						
			実績値			-	-	-	-
		算出根拠等	達成率(%)			-	-	-	-
			目標値						
		算出根拠等	実績値			-	-	-	-
			達成率(%)			-	-	-	-
		成果指標	利用人数(飛騨プラネタリウム)	目標値	4,500	5,000	5,500	6,000	6,500
				実績値	7,207	-	-	-	-
			算出根拠等	達成率(%)	160	-	-	-	-
			利用人数(丹生川文化ホール)	目標値	22,000	22,550	23,100	23,650	24,450
				実績値	25,088	-	-	-	-
			算出根拠等	達成率(%)	114	-	-	-	-
		利用人数(国府文化ホール)	目標値	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	
実績値	9,708		-	-	-	-			
算出根拠等	達成率(%)	65	-	-	-	-			
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出(千円)			(A)	34,427	54,330	-	-	
	受益者負担(使用料・負担金等)				17	10	-	-	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
	一般財源				34,410	54,320	-	-	
コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B)	379	604	-	-	
	受益者 全市民			(B)	90,938	90,024	-	-	

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・生涯学習に対する意識の高まりに伴い施設利用に対する市民ニーズは高まっている ・施設の利便性の向上や安全性の確保に対する市民ニーズは高まっている
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の管理運営である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を導入し、利用サービスの向上、コスト縮減に努めている
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・適正な管理運営により、生涯学習に対する意識が高まるなど、総合計画や教育振興基本計画の目標達成に効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価するために何が必要なのかを記入)	・施設のより一層の利用促進を図る必要がある ・施設の利便性の向上や安全性の確保に向けて、計画的に整備を行う必要がある
---------------------------------------	---

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・施設の老朽化、利用頻度等を考慮し、施設の統廃合も視野に入れ、将来的な施設のあり方について、検討する必要がある
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催 ・施設の定期報告等にもとづく施設安全整備計画の策定
------------------	---

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	・施設のより一層の利用促進を図る ・計画的に整備を実施する						